

「いっしょけんめい考えて」「言葉探し」をする

「J」生命誌研究館館長 中村 桂子
なかつ けいこ

「いのちは大切だよ」「こつ子どもに語りかけることは決して悪いことではありません。いや、とても…大切なことですよ。でも、「いのち」って何？」「大切」って何？と考えると、さあ大変。きつと人によって使っている意味が少しずつ…もしかしたら、大きく違っているのではないのでしょうか。

小さな体験をお話しします。私は「生命科学研究所」にいました。これは、文字どおり生命とは何かを研究するところですが、途中から疑問が生じてきました。生命科学は、生きものを機械のように見て、それがどんな部品でできており、どんなふうにはたらくかを調べることでその本質を知ることだと考えています。そこで、この成果を医療に応用するときに、「体の部品が壊れたのならそれを交換すればよいですね。」という考え方になりますし、生きものを自分の手で作ることが最終目標になります。これが、臓器移植や体外受精を日常医療にしました。どこか違う。生きものは機械ではないし、このような医療をどこまでも進めていくことが、「いのちを大切に」という気持ちの実現とは思えない。居心地が悪くなってきました。生きものと機械の違いを明らかにせずにこのまま進んでいくと、「いのちは大切」という言葉は私が考えているのとは別の意味になってしまふに違いないと思うたからです。

とはいえ、世界中の人が進めている学問の方向を変えるのは難しいことです。長い間、考えました。生きものを大切にするという気持ちを生かすにはどのような

な研究をすればよいのか。生きものは作るものではなく生まれてくるものだ。生きものは、皆、基本は同じだけれどこつこつ違う。生きものの特徴をあげて考えていきましたが、さまざまなことが頭の中でモヤモヤするだけで、なかなかまとまりません。ところがある日、友人と話しているうちに、「生命科学研究所ではなく、生命誌研究館だ」と思いついたのです。そのときは今でもはつきり覚えています。それまでのモヤモヤがきれいに整理されました。生きものは機械と違って、歴史との関係の中にあるのだと。だから「誌(ヒストリー)」を知り、それを「館(ホール)」で、すべての人とともに楽しめばよいのだと分かったのです。

言葉はすごい！このときの実感です。言葉は、日常的にはコミュニケーションの手段とされますが、その前に、考えるための手段であり、考えを整理するための手段であることがはつきり分かりました。地球上には多種多様な生きものがあり、どの生きものも相互にコミュニケーションをしています。その方法は、フェロモンのような物質であったり、鳴き声であったりとさまざまですが、それぞれの生きものが生きるために充分な方法です。「コミュニケーション」だけだったら人間の言葉が特に優れている訳ではありません。

しかし、考えるためにはどうしても言葉が必要ですし、逆にいうと、考えるために活用するのだから言葉は言葉を本当に生かしたことはありません。これこそ人間が言葉をもっている意味なのです。言葉があるからこそ人間は深く考えたり、他人の気持ちを思いやったり、想像を広げたりできるのですから。

「生命誌研究館」という言葉を見つけてから、「いのちを大切に」とはどういうことが自分なりにはつきりし、それについては私はこう考えますと、誰にでも語れるようになりました。語るための言葉もしっかりと自分の中に存在するよう

いっしょうけんめい考えて、「言葉探し」をする

中村桂子（なかむらけいこ）

1936年生まれ。生命誌研究者。DNA（ゲノム）を切り口として生きものを生きものとして研究する生命誌を提唱。現在、JT生命誌研究館館長。著書に、『「生きもの」感覚で生きる』（講談社）『生命誌の世界』（NHK出版）などがある。



になったのです。自分が大事にしていることはなんなのだろう。それをいっしょうけんめいに考えて「言葉探し」をすることをお勧めします。私の小さな体験から言えることです。

子どもたちは、もっている言葉が少ないだけに、いつも「言葉探し」をしているのかもしれませんが。だから、子どもは皆、詩人なのです。なにげなく言う子どもたちの言葉の背景には、発せられた言葉から大人が想像する以上に、深い思索があるのではないのでしょうか。大人の役割は、その思索をできるだけ共有し、そこからさらに考えを深めたり、広げたりする手伝いをすることでしょう。その一つが、素晴らしい物語や詩をいっしょに読むことなのだと思います。

最近、このような意味での言葉がほんざいに扱われているような気がします。「言葉探し」も、自分が考えたこと、伝えたいことを正確に表す言葉を探すというよりは、カッコイイとか人に受けるとかということを目的に行われています。国会という、最も真剣な言葉のやりとりの場であるはずの場でさえ、ああ言えばこつ言つといつむなしい音声のやりとりになっているのは悲しいことです。言葉は、人間の人間らしさを支えているものなのです。言葉があるからこそ人間という存在があると言ってもよい。他の生きものの中で人間を見る研究をしているとそう思います。言葉を大事にすることが、いのちを大切にすることの基本と言ってもよいと思います。